

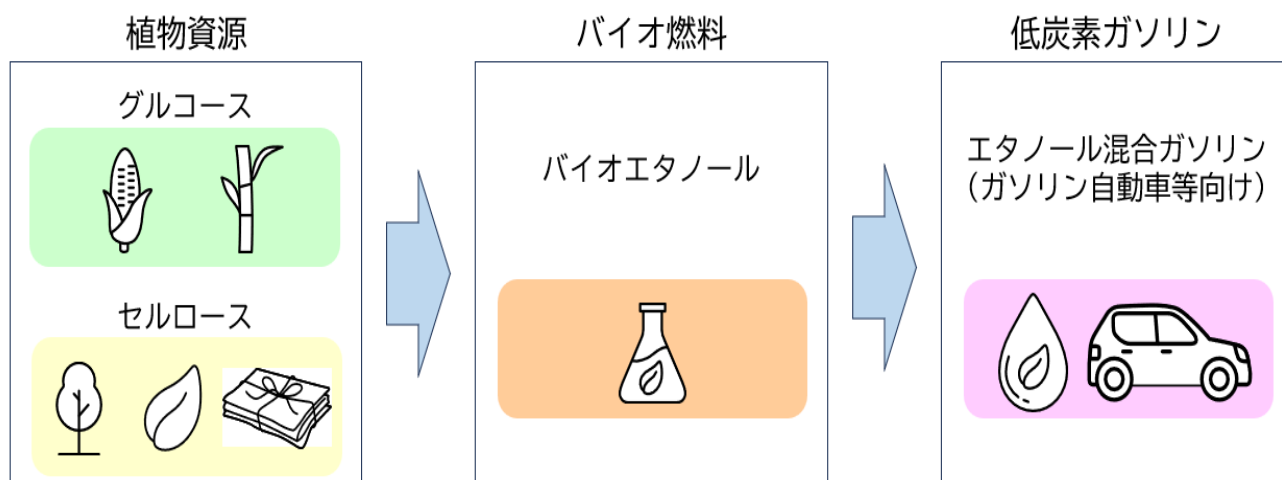
2025 年 6 月 2 日

ENEOS 低炭素ガソリン（エタノール 20%混合）の開発実証を開始 ～スーパー耐久にて、クルマと燃料 All Japan で“共挑”～

ENEOS 株式会社（以下、「ENEOS」）は、「ENEOS スーパー耐久シリーズ 2025」においてエタノール混合ガソリン※¹の提供および開発実証を開始いたします。5 月 31 日(土)、当該燃料の提供先である株式会社 S U B A R U、トヨタ自動車株式会社、日産モータースポーツ&カスタマイズ株式会社、マツダ株式会社、各社の技術開発最高責任者の皆様とともに、当該開発実証に関する会見を富士スピードウェイ（静岡県駿東郡）で開催いたしました。

<低炭素ガソリン>

植物由来のエタノール（バイオエタノール）は、トウモロコシやサトウキビなどに含まれるグルコース、ならびに草本系植物やパルプ、古紙などを原料とするセルロースを発酵させて製造されています。原料となる植物等が大気中の CO₂ を吸収することから、化石燃料と比べて炭素排出量が少ない低炭素燃料です。



既存の化石燃料由来のガソリンにバイオエタノールを混合したものがエタノール混合ガソリンであり、自動車分野で注目されている次世代の低炭素ガソリンです。2025 年 2 月に閣議決定された第 7 次エネルギー基本計画でもその期待が示されており、官民が協力して導入に向けた環境整備を進めています。当社では、長年培った燃料に関する技術的知見を活用し、従来からエタノール 20%混合ガソリン（以下「E20」）の品質（JIS 規格）が定義されていないことや国内外での技術情報が不足しているという課題に取り組んでいます。ENEOS スーパー耐久シリーズでの E20 供給を通じて、自動車メーカーと燃料メーカーが協力し、過酷なレース条件下での開発と実証を目指しています。供給先のチーム、STMO※²のご協力を得ながら、日本における低炭素燃料技術の進展に努めてまいります。



ENEOS グループは、「今日のあたり前を支え、明日のあたり前をリードする」という決意のもと、長期ビジョンに掲げる「エネルギー・素材の安定供給」と「カーボンニュートラル社会の実現」の両立を目指します。当社は、カーボンニュートラル社会への貢献が期待できる次世代燃料の取り組みを含め、今後もさまざまなエネルギー・トランジションへの取り組みを推進してまいります。

<会見の様子>



- 左から1人目 トヨタ自動車株式会社 取締役副社長 CT0 中嶋裕樹
同2人目 株式会社SUBARU 取締役専務執行役員 CT0 藤貴哲郎
同3人目 ENEOS ホールディングス株式会社 常務執行役員 CT0 藤山優一郎
同4人目 一般財団法人スーパー耐久未来機構 副理事長 桑山晴美
同5人目 マツダ株式会社 専務執行役員 CT0 梅下隆一
同6人目 日産モータースポーツ&カスタマイズ株式会社 専務執行役員 木賀新一

以上

※1 エタノール混合ガソリン：既存の化石燃料由来のガソリンにバイオエタノールを混合したもの

※2 STMO（General incorporated association Super Taikyu MIRAI Organization）：スーパー耐久レースの企画・運営を行い、実験車両の走る ST-Q クラスを創設した、一般社団法人スーパー耐久未来機構

共挑：スーパー耐久の ST-Q クラスにおいて、カーボンニュートラル社会の実現に向けて「共に挑む」想いを同じくする自動車メーカー5 社の枠組み